

平成 30 年 10 月 18 日

知立市議会議員

三宅 守人

全国都市問題会議報告書

期 日 平成 30 年 10 月 11 日（木）・12 日（金）

テーマ 市民協働による公共の拠点づくり

1. 市民協働による公共の拠点とは何か

(1) 市民がほかの市民や行政と自発的に結びつき、繋がろうとするのであれば、それにふさわしい場所が必要である。これが公共の拠点である。

(2) 自治体が一方的に公共の拠点を整備するだけでは、市民の多様なニーズに応えることができず、市民活動や協働の充実につながらない。

公共の拠点づくりは市民を行政が協働して進めていくことが大事である。

(3) 公共施設を利用する場合、行政が施設の利用目的を定め市民が利用することができたがこれでは駄目である。

市民と行政の両社が互いの公共性が融合し、施設の魅力が引き出される。予想もできない相乗効果が生まれる。

そうした公共の拠点は多種多様な人々を引き寄せ、結び付け新たな化学反応を連鎖的に引き起こして、好循環を作り出していくと思います。

(4) 市民の誰もが立ち入りやすく、自由に利用しやすい施設を作ることである。

2. 市民協働による公共の拠点づくりを進めるのか

(1) 市民活動に参加しやすい時の到来

高齢者人口増大により自由な時間を確保できるようになった。

高齢者の知識や技術を積極的に活かす。

SNS、ネット等を通じて意見を拭う。共通の目的を持つ人同士がつながりやすくなった。

(2) 都市間交流の進展

都市間交流を通じて、自分の住む地域の魅力を再発見し課題を再認識する。

交流によって地域外の人、物、情報も活用できるようになった。

(3) 空き施設の増加

少子高齢化、市町村合併に伴い学校、公共施設が増加している。

3. 市民協働による公共の拠点づくり

市民活動は行政の下請けではない。

(1) 市民協働に携わる人材の育成

地域の魅力を理解し、まちづくりやNPO活動などの担い手と」
なる地域公共人材の養成。

(2) 公共の拠点となる場所の活用

図書館や子育て支援施設、学校施設。

(3) まちづくりの取り組み

公共施設の複合化、リノベーション、中心市街地の再開発。

市民と行政が一緒になって検討していく。

[所見]

知立市は古くから交通の要所として栄え歴史と文化のまちである。

現在、知立市は知立駅周辺再生の為に3つの事業を行っている。

知立駅付近連続立体交差事業

知立駅周辺土地区画整理事業

知立駅前地区市街地再開発事業

さらに、西新地地区、新富地区の開発が進められております。住民の生活利便性の向上、まちに賑わいをもたらす、未来の子供たちの為に市民協働による拠点づくりを考えていきたいと思っております。